



大阪YWCA

12/1

2021/2022

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

岸田文雄の新しくない資本主義は要らない

浜 矩子



「アホダノミクス」。筆者は、岸田政権の経済運営をこの命名した。「アベノミクス」は「アホノミクス」と呼び変えた。菅政権については、「スカノミクス」を採用した。今度は何にしようか。そう思案していると、ほどなく「アホダノミクス」が思い浮かんだ。

このネーミングの意味は二つある。その一は、「アホノミクス」丸パクリの意。岸田氏が打ち出した「成長と分配の好循環」は、2016年からアホノミクスの大將が使い出した。これを、そのまま使っているだけである。

その二は、「困った時のアホ頼み」だ。岸田氏が自民党総裁選に勝利出来たのは、アホノミクスの大將の画策によるところ大だった。

岸田氏が看板として掲げているのが「新しい資本主義」だ。これは一体、何物か。どこかどう新しいのか。新しい資本主義は古い資本主義とどう違うのか。イメージが明確化されないまま、言葉が独り歩きしている。

岸田氏は、12月6日に開幕した臨時国会の冒頭で、恒例にしたがつて所信表明演説を行った。その中に、「新しい資本主義の下での成長」という項目がある。その書き出しが「まずは、成長戦略です」。何はともあれ、成長戦略なのだと言言している。このスタンスのどこが「新しい」のか。成長、成長、また成長は、アホノミクス以来の既定路線だ。

「新しい資本主義の主役は地方です。」という文章もある。

地方が主役となることは、大いに結構だ。だが、そのことと「新しい資本主義」はどう結びつくのか。説明がない。

最も驚くのが、「人類共通の課題である気候変動問題。この社会課題を、新たな市場を生む成長分野へと大きく転換していきます。」というくだりだ。そもそも、気候変動問題が人類共通の課題になっているのは、地球経済の過大膨張が地球環境に負荷をかけた過ぎているからだ。成長し過ぎの地球経済が、地球からはみ出してしまつて、様々な異変をもたらししているのである。それなのに、気候変動問題への対応を新たな成長の種に仕立てようとしている。こんな新しさを我々は欲していない。欲しいのは、「新しい

資本主義」ではない。「真の資本主義」だ。日本に善き未来が訪れるためには、徹底した人（ひと）本位主義の確立が必要だ。

はまのりこ

同志社大学大学院ビジネス研究科教授。エコノミスト。1952年8月3日東京都生まれ。1975年一橋大学卒業、三菱総合研究所入社。1990年4月より98年9月まで同社初代ロンドン駐在員事務所長。帰国後、同社経済調査部長、政策経済研究センター主席研究員を経て2002年10月より現職。専門領域は国際経済学。近著に『共に生きるための経済』（平凡社新書、2020年）、『統合欧州の危うい今』（詩想社、2020年）、『大借金男百問と漱石センセイ』（共著、新日本出版社、2020年）、『スカノミクスに蝕まれる日本経済』（研友首相の思惑と下心）（青春出版、2021年）がある。



クリスマスメッセージ 「インマヌエルモザイク」

大阪城北教会 東島 美穂



「コミュニケーションできない現実、物語が生まれないう小石からできています。モザイクは何千とだ、3・11を心に刻む記事の中にあった言葉ですが、「集まる・交わる・触れ合う」から引き離されたコロナ禍で思い起こしました。その中でも確かにそれぞれに固有の物語は紡がれていました。ただ、その固有である「わたし」の物語や、出会いや関わりを共にすることで紡がれる「わたしたち」の物語に傾聴し、共感し、触れ合う時と処が失われ、「コミュニケーションできない現実」は「孤」の物語を生みだす状態を押し進めました。だからこそ、バラバラにされ、打ち砕かれた「孤」と共にあるうとする小さな物語が様々な懸念に紡がれていることを思います。

ナウエンの「神のみ顔を現

すモザイク」の一節にこうあります。「モザイクは何千という小石からできています。あるものは青、あるものは緑、あるものは黄色や金色をしています。モザイクに顔を近づけて見ると、一つひとつの石の美しさに驚かされま

人たちは、それぞれが砕かれた細片としての小さな石「孤」の物語はバラバラに置かれています。これらの小さな石が一つの絵をかたちづく

り、石一つでは決して語ることのできない物語を語っています。「ひとりじゃないよ」「あなたがいなければ」「インマヌエル…神我らと共にいます」を現すモザイクとして

孤であり砕片である小さな石が大切に拾い集められ、「一つになっっているのを見て、人々は『彼らは神を現している』と言うでしょう」(ナウエンの言葉の続き)。小さく

されている孤石が主の光に照らし出され集められて、暗闇の中で「インマヌエルモザイク」を現す驚きと希望とされますように。

です。幼子イエスに寄り添う



12月4日(土)、クリスマスバザーが2年ぶりに開催されました。例年は地域の皆さんにも定着し、1000名近い方にご来場いただく催しですが、緊急事態宣言が解除されたとはいえ、コロナ禍が終息したわけではありません。普段活動している委員会やグループ単位で売り場を作る新しい形を取り入れつつ、規模を大幅に縮小し、来場者も会員や賛助員、ボランティア等に限定、時間も13時から15時と短くしての開催となりました。当日は、約100名が来場。

お買い物ももちろんですが、懐かしい人に会えるのもバザーの大きなお楽しみですが、長くオンラインでの会議や催し物が続いたため、会場のあちらこちらで再会をよるごぶごぶの歓声が響いていました。

小規模の催しとなったにも関わらず、ご寄贈品をお送りいただいた企業や個人の皆さんのご協力に深く感謝いたします。来年は、より多くの皆さんと、楽しい時間を持ちたいと願っています。

(総幹事 中山 羊奈)



共に老いて

ミシンが動かなくなりました。結婚した時買った古いミシン、針仕事の苦手な私は使うことも無く、2Kの部屋で邪魔な存在だった。やがて電動ミシンが普及し、「電動に換えて押入れに入れよう」と言う夫の言に従い足踏み部分は取り外されモーターを付けて押入れに収まった。

YWCAの職員となった私はバザー時、製作品を担当。縫い物上手な会員さんに頼んだらよいと聞いたが、試作や仕上げはせざるを得ない。エプロン、座布団カバー、枕カバー、袋物……ミシンはリビングの一角に陣取り、バザー前ともなれば夜ごとジャージャーと走り続け、私は創る喜びを知る。会員の立場になっても製作品担当は続いている。

長年、目を患い最近ではミシン目も見えづらくなっていた。お互い年をとったねと心の中でつぶやいている。

(会員 本田 芳子)



歌声届けよう ハッピークリスマス



12月5日、こども部の今年度最初のプログラム「歌声届けよう ハッピークリスマス〜つくる楽しさ 歌うよろこび〜」がわくわくの郷で行われました。プロのシンガーソングライターをゲストに招き、オリジナルのクリスマスソングを子どもたちと作りました。

しつとりとしたゲストのミニコンサートから始まり、クリスマスソングのタイトル当てゲームや歌詞当てゲームで盛り上がり、オリジナルソングの歌詞作りに突入です。ゲストが作曲してくれた曲に合わせて、メロディーに当てはまる文字数を数えながら、クリスマスらしい単語を並べていきます。始める前はうまく話しかけ合っているか心配でしたが、「この単語を入れたい」と提案してくれる子どもたちと作りました。



やうまく文章になるように考えてくれた高学年の子など、みんな積極的に参加してくれました。また、ゲストのギターのフォロにも助けられました。おかげで個性的な歌詞ができあがり、自分で書いた赤と緑のクリスマスカラーの歌詞カードを持って、グループごとに前に出て発表しました。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大のおかげでプログラムの延期や中止が相次ぎ、子どもたちと会えるのも本当に久しぶりでいたみんなが心待ちにしていたプログラムです。たくさん笑顔を見ることができて、ほんとうに楽しかったです。これからも、子どもたちが元気にのびのびと遊べる場自分らしくいられる場の提供を目指して、安心安全なプログラム作りを続けていきたいと思えます。

(会員 平井佐津紀)

わたしのイチオシ!

クラフト 「ハーバリウム」



ハーバリウムとはガラスの可愛い小瓶にドライフラワーなどをオイル漬けにしたもので、お花の美しい姿を保ち続けることができます。季節のお花や貝殻、ビー玉を入れたり、クリスマスやハロウィンなどに合わせてフィルムを貼ったりしても素敵。ガラスの透明感を活かして様々なアレンジが可能なインテリアです。(会員 小澤 祐子)

「標準服の徹底」では事態が動かない現実を前に、民主的なプ

後藤さんご自身は、「みんな同じ格好なんて気持ち悪いでしょ?」という考えの方で、そもそも制服は「標準服」で、着てもいいし着なくてもいいものであることを明言。ただ、その

この過程で、制服にとどまらない理不尽な校則の数々にも直面。下着の色の検査がきっかけで不登校になった事例など、多様な人権侵害について調査を行い、弁護士会を挙げて問題提起を続けておられます。

講演後は、講師と参加者の質疑応答・意見交換が活発に行われ、充実した時間を過ごすことができました。

(女性エンパワメント

推進チーム)



ジェンダーレス制服って?

関学YWCAと女性エンパワメント推進チームの交流を兼ねたオンラインイベントをもつことになり、学生メンバーの発案で「制服とジェンダー」をテーマに決めました。11月14日(日)の夕方、講師は、福岡県弁護士会所属の後藤富和弁護士。福岡の市立中学校のPTA会長として、校長と二人三脚で制服のジェンダーレス化(男女共、スカートかストラックスかを選べる)を実現された方です。

ロセスを経て「男女ともブレザーにストラックスかスカート」に変更。周囲の学校にもそれが波及し、「男子詰襟・女子セーラー服」が当然だった北九州で、現在は、市内の全市立中学校がジェンダーレス制服を採用しているそうです。

聖書の言葉
言(ことば)は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた。(ヨハネによる福音書1章14節)



FUJIKI

藤木工務店

未来へ— 安心を創る
大阪本店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10
ニッセイ備後ビル1階 TEL06-4964-8700

キリスト教葬儀に関する全てを承っております



株式会社

イースター式典社

代表取締役 小林 望

☎0120-415-087 (24時間) ✉info@easter-net.co.jp

営業エリア:近畿2府4県・福井・三重・鳥取・岡山・徳島・香川

兵庫県西宮市上甲子園5-10-23 TEL0798-37-3781 FAX0798-37-3789

http://www.easter-net.co.jp

ウェルカムスープ



コロナウィルスの影響で、ずっとできなかったスープの日。なんと1年9カ月ぶりです。

大阪YWCA奨学金委員会の皆様による、手作りの野菜たっぷりスープ。学生たちに大好評で、ほとんどの学生がおかわりしていました。

学生のためにスープを作ってくれたことと、嬉しそうな学生たちの様子に、心が暖かくなりました。

(職員 藤田 実余子)

奨学金に感謝

12月17日(水)に2021年度後期奨学金認定式が行われ、5名の学生が奨学金を授与されました。「日本学生支援機構私費外国人留学生奨励費」に決定した連芝淇さんから感謝の声が届いています。

この一年間の留学生生活で、自分の視野が広がられたと感じています。いろんな国のクラスメイトと一緒に授業を受けたり、遊びに行ったりすることによって、自分の国と日本のことだけではなく、いろんな国の文化や世界に向かっていくようになりました。みんなと出迎え、一緒に交流することができたのは、私にとって特別で貴重な経験です。

この度は、奨学金をいただきまして、誠にありがとうございます。

コロナで不安な気持ちでいっぱいでしたが、ご支援をくださった全ての方のおかげで、経済的な負担が減り、勉強に専念することができました。大学に入つて、やりたいことを学び、目標を持ちながら大学生活を送りますように頑張ります。



右から 韓彬さん ニヤムタワーさん ミンさん ソウドエルデネさん 連芝淇さん

奨学生として採用していただき、感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進していきたいと思えます。

第一志望の同志社大学に合格できて、とても嬉しかったです。受験の準備だけでなく、先生と大学のことをいろいろ調べたり、志望理由書の内容も何回も書き直しました。面接の練習も夏休み前から、先生たちと何回もしてくれました。

(奨学生 連芝淇)

information

状況によっては中止・延期となる可能性がございます。詳細はお問い合わせ下さい。 06-6361-0838

■女性が政治に関わる事の大切さ

衆議院議員として国政に関わられた後、宝塚市長を12年間お務めになり、宝塚市を市民が誇れる街に蘇らせられたご経験、女性として政治に関わって来られたご苦労、女性だからこそ物申せる部分、身近な生活者の視点からの政治のお話などをさせていただきます。

【時間】 2022年1月15日(土) 14:00~16:00
【講師】 中川智子(前宝塚市長)
【会場】 大阪YWCA会館(オンライン参加も可能。要申込)
【参加費】 1,000円

■欧州評議会イスタンブール条約に学ぶ—DV被害者支援の新しい在り方

【時間】 2022年2月19日(土)午後
【シンポジスト】 戒能民江(お茶の水女子大学名誉教授)
 石本宗子(社会福祉士)
【司会】 雪田樹理(弁護士、特定非営利活動法人いくの学園 理事長)
【参加費】 1,500円
【会場】 オンライン(大阪YWCA会場参加も可能。要申込)
【申込】 ピーティックスで参加申込・支払いを予定している。
【主催】 特定非営利活動法人 いくの学園
 共催 公益財団法人 大阪YWCA
【お問合せ・申込】 いくの学園
 メール contact@ikunogakuen.org
 FAX 06 (6718) 5205

ご協力ありがとうございます

21/10/1~11/30 敬称略順不同

■賛助費
個人
 松江 訓子 藤原裕美子 藤田 恭子
 石井由佳子 太平美保子 望月 文子
 植原 昭子 河野 栄子 辻 朋宏
 宇都宮ゆかり 神屋敷絹恵
寄付
 梅田 橋本智香子
 コスモ建物管理株式会社
大阪版
 匿名1名
ごども部
 匿名1名
その他
 上田 賢博 小八木晴代 谷川いづみ

■募金
 13口 124,800円
 藤岡美智子 森垣 房子 有井由紀子
 家本 陽一 西本 照子

10月運営委員会報告

【報告】 ▼女性エンパワメント推進チーム 12/18インタラシッププログラム「男女共同参画推進フォーラム」へ出席
 ▼千里委員会 10/23ガレージセトル実施
【協議】 ①クリスマスバザーについて

11月運営委員会報告

【報告】 ▼平和環境部 12/18憲法カフェ「国民投票法改正案の問題点を探る」
 ▼千里委員会 およこひろばアドラーdeママズカフェ実施
 12/8クリスマス会 ▼4市Yフォロアアップ講座 「グラフィックコーディング」
【協議】 ①日本Y主催「運営委員のためのワークショップ」準備について